



牧村範康 議員

持続可能な行政運営の推進について

～組織の見直しと人材育成を～

現在、職員提案制度（ボトムアップシステム）は機能しているのか。高度化する住民ニーズに対応すべく、各課の垣根を越えたワーキンググループを機能させ、職員さんの高いポテンシャルを有効利用することが重要だ。

町長 現在ワーキンググループはないが、国体では多くの職員の提案をいただき全職員で取り組んできた。また、行革のプロジェクトは町単独になつてから進めてきたが、平成23年度からプロジェクトチームを作り各課の横断的な議論を進めている。毎年4月には職員の年間目標を設定させ評価をしている。現在は部長兼課長制である。若い職員の夢を壊さないシステムを考えたい。

新教育長の教育方針について

～さらなる地域愛の醸成を～

公教育の周辺を総合的に鑑みた上で、町の学校教育における望ましい教師像、根っこにあるべき職業観をどのように捉え、現状認識と対策をどのように講じるのか。

多方面で憲法改正が叫ばれる中、自虐的な近現代史だけではなく、教科書に記述されていない歴史教育も必要だ。初等中等教育ではイデオロギー形成に与える影響が大きいうえ「歴史の捉え方」として偏つてはいけない。現場での対応を望むが。

教育長 学習指導要領を踏まえて、検定済みの教科書により授業を展開している。つまり、教師自身の歴史観・価値観を注入しないことは前提ではある。その中で地域愛や誇りを醸成していると考えている。

地域医療の充実化について

～池野駅北医療モールコンセプトは～

町長 10月開業予定の内科、数年後の耳鼻科に加えて、もう一院「皮膚科」を検討できないか。駅と一体化した充実した整備のため、駅からの歩道のアーケード化、さらに防犯上、照明やミラーを充実すべきだが。



池野駅北口の「健康医療ゾーン」計画図